

令和7年度第1回まんが王国・土佐推進協議会 総会概要

日 時：令和7年9月12日（金）13:30～15:10

場 所：高知県立高知城歴史博物館（オンライン併用）

出席者：まんが王国・土佐推進協議会委員16名（うち2名は代理参加）、監事2名、
オブザーバー1名

（1）会長あいさつ

（2）議事

次の議案について事務局から説明があり、承認された。

第1号議案 令和6年度まんが王国・土佐推進協議会事業報告

第2号議案 令和6年度まんが王国・土佐推進協議会収支決算報告

（3）報告事項

次の報告事項について、事務局から説明が行われた。

第1号報告 令和7年度「まんが王国・土佐」ブランド化の推進について

（4）協議事項

次の協議事項について、事務局から説明の後、意見交換が行われた。

第1号協議 来年度のまんが甲子園について

第2号協議 高知まんがBASEの方向性について

（5）閉会

第2回総会は、令和8年2月に開催を予定。

第 1 号議案 令和 6 年度まんが王国・土佐推進協議会事業報告

第 2 号議案 令和 6 年度まんが王国・土佐推進協議会収支決算報告

<事務局より説明>

<質疑応答>

【B 委員】

○全国漫画家大会議やポータルサイトの実績について、来場者数や閲覧数が増加しているが、PR の仕方やゲスト等、何か変わったのか。

(事務局) 全国漫画家大会議は、トークイベントに関連づけて物販やサイン会を実施したことにより来場者数が増えた。ポータルサイトは、サイト上の PR を強化したことに加え、まんがコンテストの数が増えたことにより閲覧数が増えたと分析している。

【G 委員】

○全国漫画家大会議の終了が本当に残念。

○まんが BASE の来館者数が増えていることは嬉しい。一方、親子まんが教室の参加者数は半減している。プロの先生の指導を親子で楽しめる非常に貴重な機会であるにも関わらず減少するのはなぜなのか。

(事務局) 周知が不十分なのではないかと思われるため、これを強化する方向で考えたい。

【I 委員】

○全国漫画家大会議は、最後に大きな花火を打ち上げる形となったが、情報発信を工夫することにより、閲覧者数の増加に繋げることができたと思われる。

○ポータルサイトは、全国漫画家大会議の情報を得るために、セッション数が増えたと思われる。つまり、まんが BASE のイベントも、リーチする対象を意識した発信をすることにより、もっと情報が届きやすくなる。また、小学生向けのチラシを学校に配布するだけで、参加意欲に繋がる。

<委員一同承認>

第 1 号報告 令和 7 年度「まんが王国・土佐」ブランド化の推進について

<事務局より説明>

<質疑なし>

第1号協議 来年度のまんが甲子園について

■審査体制の見直し

<事務局より説明>

<意見交換>

【F委員】

○AIの逆画像検索は、割と一般的な技術で、例えばグーグルレンズやショッピングアプリにも使われている。AIの世界は日進月歩なので、可能性の一つとして残して検討していくほうが良いと考える。類似作品の検索は、AIの得意分野。

(事務局) 専門家に聞いたところ、まんがは意味の解釈や構図、タッチ等、判断する要素が多いため、類似性を調べるのは難しいとのこと。また、1対多数の検索は難しいという御意見をちょうだいした。

(議長) 可能性を排除しないという御意見なので、また参考にできればと思う。

【B委員】

○予選審査では事務局による選定を行っているとのことだが、200近い応募作品を1週間でチェックしているのか。予選で、事務局が著作権を含めたチェックをした後で審査員に審査していただくという流れが確立されているのであれば、本選でも取り入れられるのではないか。

(事務局) 予選における事務局の審査は、主に応募の重複等。また、特定のキャラクターを使用しているような明らかな著作権侵害にあたる作品であれば、発見して除外する手続きを取り得る。本選大会は、作品の善し悪しについて審査員に評価していただくことを基本としており、明らかに類似性がある場合は、それも含めて審査することはできるが、チェックの時間をあらかじめ取っていたということはなかった。

【J委員】

○こういうこともあり得ると思い、前回の総会で、審査員に高校生を加える提案をしていた。世の中は進化している。今の流れは、やはり同世代の人が決めるべきだと思う。今回の件は、高校生を審査員に入れていたら、おそらく発見できていた。審査会を見直していくべき。予選は審査員が選んでも良いが、本選は一般の方々が選

ぶ方向性に変えていったほうが良い。

- こういった問題は、商標登録にもあるが、AI では分からない。AI が完全になるまで人の目で対応していかないと危険。マリークワントやバーバリーチェックは、色では登録していないため、パターンをまねると問題になる。
- 歴史的な問題を知らずに差別的な表現をしてしまうことにも注意が必要。
- いろいろな危険をはらんでいるので、数多くの人たちが見て、指摘をすべて拾い上げる形式が良いと考える。

【H委員】

- このたびの事案は非常に残念なこと。情報が溢れている時代で、昔の作品を見つけることも簡単であるため、こういうことが起きたと思う。既出の作品のことを知らなかったとしても、まんが甲子園の規約に反した作品は失格で当然。
- 審査の時間が短い。もう少し時間に余裕が欲しい。一生懸命、審査しているが、短い時間に決めることは非常に難しい。事務局には、審査員を含めて、時間的なことを検討していただきたい。

【G委員】

- 私はいろいろな賞の審査をしているが、同じようなことはある。まんが甲子園は、しっかりブランド化されてるから、大々的になったと思う。
- 予防のための改善は非常に大切だが、ベストを尽くしても再発がないとも限らないので、何かあった時の対応が問われる。まんが甲子園が信頼できるものであることを示さなければならない。失格になった学校の生徒をどのようにケアしたのか、詳しく知りたい。
- 主催者の県には堂々として欲しい。ホームページに作品を掲載していないのは、いろいろ事情があるかもしれないが、揉み消しのようにも見えてしまう。参加者が大会を振り返れないことは、信頼に関わる。
- 著作権は、漫画家を守ってくれる大切な法律。創作活動に関わっていこうと思っている生徒たちにとっても、将来的に大事なものなので、もう少し知る機会があっても良い。今回のことは、学ぶ機会として生かしていくべき。資料にある著作権に関わる講座の動画視聴は、非常に有効だと感じる。

(事務局) 生徒への対応としては、8月5日に主催者コメントを発表し、今回の決定に至った経緯や判断理由等を示した上で、誹謗中傷を止めるように呼びかけた。また該当校には連絡を取りながら、対応を話し合ってきた。

動画の掲載は、表彰式の様子等も含まれていたため現在公開していない。該当校の生徒が映ると、また問題が起こることも大変心配なので、生徒や学校の受け止め方を踏まえながら、慎重に検討している。可能な限り掲載する方向で検討したい。

講評動画は、編集作業中。できるだけ速やかに掲載したい。

【K委員】

○令和4年度から新しい高校の学習指導要領に基づいて指導している。情報Ⅰという必修科目ができ、おおむね1年生が週2時間、プログラミングといったリテラシーに加え、情報社会における個人の責任や情報モラルについて学習している。著作権に関しては、知的財産に関する学習の中で取り扱われている。今回の事案を通じて、著作権を基礎から身に付けることが大切だと感じた。

【D委員】

○審査会場で、協賛者や先生方が、今回のような事案をチェックすることは難しい。そういうことは絶対ないという前提で、これまで審査してきた。今回はイレギュラーなことが起こってしまったが、我々も県と一緒に頑張ってまんが甲子園を応援していきたい。

【E委員】

○再発防止が非常に大事なので、審査におけるチェック体制や、当日の運営のあり方について、事前にしっかり検討をお願いしたい。

【A委員】

○申込みの段階で、第三者機関を経て、著作権等をクリアした作品が審査に上がってくるプロセスが必要。工業界のことだが、知的財産の審査体制は整備されてくると思う。そういう専門機関ができてくる、あるいは既にあるかもしれないので、そこを通すと良い。

【I委員】

○例えば、新聞の風刺漫画には、政治家のパロディーがある。そういったまんがの側面がある中で、様々な権利を守っていくことは、難しい問題。

○今のルールは昔に作られたもので、2020年代にぴったりフィットしてるわけではない。

○がんじがらめにする方法と、オールフリーにする方法があるが、事業推進部会としては、創意性や様々な思いつきをぶつけても大丈夫だと担保したい。まんが甲子園に今は直接関わっていないが、まんがのことを常に考えている人が、10代から90代までいる。様々な世代、様々なジャンルの方々に組織を作り、類似性を見つけても良いと思う。その是非を判断するのは審査員。

【N委員】

○横山隆一記念館でも、4コマ漫画大賞を募集しており、1500点ほどの作品が提出される。今回のようなことはあってはならないと思うが、オリジナルとアレンジの線引きは非常に難しいので、この議論を参考にさせていただく。

【C委員】

○応募する高校生は、描くことが好きなので、まねをしてはいけないという知識はある。そこに比重を持たせるよりも、AIの活用を含め、チェック機能をしっかりと果たしていくことが必要。

【M委員】

○AIが発達する中で、知的財産の問題は悩ましい。子供は学ぶ過程で人のまねをすることがあり、類似性に繋がることもあり得るが、子供のまんがを描きたいという気持ちを大切にしたい。AIも進歩するので、チェック体制を整えるべき。

【L委員】

○まんが甲子園は、高校生にとって、夢であり、チャレンジしたい場所。

○プロが作品をチェックするノウハウも学びになる。表現するということは、責任を持つことであると学ぶチャンスである。

(議長) 高校生の夢の舞台として続いてきたまんが甲子園を大事にしつつ、今の時代に合っていないところは工夫を検討していく。チェック体制、リテラシー向上、またAIを活用できる場面もあるかと思うので、総合的に検討する。

■令和8年度まんが甲子園事業の提案

<事務局より説明>

<意見交換>

【G委員】

○応募数が減ったということだが、数字は気にならない。近年、予選も本選も良い作品が提出されるので、手応えを感じている。これは、まんが甲子園が継続してきたことの成果として喜んで良いと思う。

○開閉会式を7階で開催することは嬉しい。初めて審査員として参加した際、7階で行われた入場行進を見て感動した。

<事務局より説明>

<意見交換>

【G委員】

○まんが教室の講師として、中心部から離れた場所を訪れると、まんが王国・土佐が届いていないと感じる。出張まんが BASE を中山間地域に拡大することは大賛成。まんが教室とドッキングし、講義に加えて機材を用いた体験ができれば充実した内容になるのではないかな。

(事務局) まんが教室と出張まんが BASE の連携は考えている。まんが教室は学校単位、出張まんが BASE はイベントとセットになっている。これをどう連携させていくかは、しっかり検討していく。

【I委員】

○まんが BASE 号があれば良い。県の軽自動車をまんが BASE のキャラクター等でラッピングし、音楽を流しながら公民館等を訪問する。子供たちに貸し出す画材やデジタル機材を積み込み、講師も同乗。そこでまんがを描くと、うちわ等、何かもらえる。

(事務局) ラッピングカーは費用的な問題がある。要は PR。知ってもらわないと意味がない。その観点を含めて取組のあり方を検討する。

【A委員】

○作画スキルを持った若者の県内就職に繋げるということだが、受皿はどこか。高知信用金庫が取り組んでいるアニメクリエイターのオフィスなのか。

(事務局) 高知信用金庫のアニメの取組も就職先の候補となる。その他、印刷会社や広告代理店。

【D委員】

○県がまんが王国・土佐を宣言し、その主な取組がまんが甲子園と全国漫画家大会議だった。全国漫画家大会議がなくなり、まんが甲子園だけでは露出が弱い。また、まんが甲子園の入場者は関係者だけになっている。もっと盛り上げる方策があっても良い。

【I委員】

○全国漫画家大会議、まんが甲子園、高知市が開催するまんさい、この三つが 4 ヶ月ごとにあつたので、ちょうど良かったが、全国漫画家大会議がなくなった。

- 高知県も一緒になって、まんさいをやったら良いとずっと言っているが、市と県は一緒にやらないというルールがあるようで、県がまんさいに関わってこない。県もブース出展とまんがBASEは参加しているので、連携を強化し、また、まんさいについて、この協議会の総会で話すことができれば、薄くなったところを濃くすることができる。春に何ができるかという話もできる。
- 全国漫画家大会議の特徴は、多くの漫画家が集まってくることだった。それをまんが甲子園に加えると、入場者数が増えると思う。

【オブザーバー】

- 文化庁でも、まんがを含めた様々な芸術の振興、特に漫画家等のクリエイターの育成に力を入れていきたいと考えており、令和8年度予算でも、新しい施策を打ち出す準備をしている。
- 地方の取組を文化庁がネットワーク化し、情報共有や相互協力ができるように取り組んでいる。